

○ 第2回渋川市総合計画審議会結果概要

開催日時	平成28年11月1日(火) 13時30分から15時30分まで
開催場所 及び出席者	<p>本庁舎3階 大会議室</p> <p>○審議会委員（河藤委員、結城委員、福田委員、狩野委員、南雲委員、桑島委員、川島委員、小澤委員、今井委員、水沢委員、入澤委員、眞下委員、寺島委員、大森委員、反町委員、大澤委員、戸塚委員、野村委員、唐澤委員、荻野委員）</p> <p>○市長</p> <p>○策定委員会委員（副市長、教育長、財政課長（代理出席）、企画部長、市民生活課長（代理出席）、こども課長（代理出席）、農林課長（代理出席）、商工振興課長（代理出席）、建築住宅課長（代理出席）、下水道課長（代理出席）、教育総務課長（代理出席）、監査委員事務局副事務局長（代理出席）、農業委員会事務局長）</p> <p>○事務局（企画課長、企画課統括主幹、企画課政策係員）</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諮問書（写）</li> <li>・ 資料No.1 渋川市総合計画審議会への諮問及び答申について</li> <li>・ 資料No.2 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について （市民意識調査結果報告書(中間報告版)、中学生・高校生意識調査結果報告書(速報版)、市民ワークショップ実施結果報告書(概要版)、平成28年度地区別・分野別懇談会実施結果報告書(概要版)、第2次渋川市総合計画基礎調査報告書(速報版)）</li> <li>・ 資料No.3 基本構想の考え方について</li> <li>・ 第1回渋川市総合計画審議会結果概要</li> <li>・ 正誤表(資料No.2 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について)</li> </ul>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ（市長、会長）</li> <li>3 諮問 第2次渋川市総合計画について</li> <li>4 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）報告事項 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について</li> <li>（2）協議事項 第2次渋川市総合計画基本構想の考え方について</li> </ul> </li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>
審議結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について 市民意識調査と中高生意識調査結果報告書を対照し、若い世代の意見を把握する。</li> <li>（2） 第2次渋川市総合計画基本構想の考え方について 基本的にはこの考え方でよいが、内容について再検討する。</li> </ol>

○ 第2回渋川市総合計画審議会での意見等

(1) 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について

No.	委員からの意見等	回答等
1	<p>市民意識調査結果報告書を見ると、高齢者からの回答が多くなっているが、市の人口比率と合っているのか。</p> <p>10代、20代、30代は、数としては減ってしまうが、統計学的に問題はないのか。</p>	<p>【市】4,000人の中で、年代についてはある程度同じ数になるよう配布したが、結果として70代以上の回答が多かった。クロス集計で年代別の傾向は把握することができる。</p> <p>【副会長】人口比率を考えて配布しているようなので、回収率は仕方がないが、若い人たちの意見がどこまで反映されているのか、若い人たちにとって適切な質問であるかを確認しながら読み込む必要がある。中高生意識調査を実施し、総合的に読み取る工夫をしているので、市民意識調査と中高生意識調査の結果を対照し、若い世代の声をつかんでいくことが大切ではないか。</p>

(2) 第2次渋川市総合計画基本構想の考え方について

No.	委員からの意見等	回答等
1	<p>市民意識調査結果等から教育環境の充実や地域を支える担い手の育成、人材育成など、人を大切にしまちづくりを考えるとあるが、どこに反映されているのか。</p> <p>昨年度作成した総合戦略では、子育てなどかなりシフトしているイメージがあるが、進学後、また必ず若者が帰ってくるようなまちづくりは、盛り込まないのか。</p>	<p>【市】「豊かな心と文化を育むまち」、「市民とともにつくるふれあいのまち」を基本とし、教育・文化、コミュニティの部分を強化していきたい。合併後10年経過したが、一体感の醸成が図られていないので、コミュニティや教育、スポーツ等を通じ、一体感を感じられるようにしていきたい。</p> <p>個々の部分は基本計画などに繋げていくが、人口減少は大きな問題であり、「魅力や活力のあるにぎわいのまち」のところで考えていきたい。</p>
2	<p>利根川は雑魚もいない川となってきたているが、自然環境の保全などに関して市はどのように考えているのか。</p>	<p>【市】河川管理の県に昔の生態系がなるべく保たれるように要請するとともに、市民に対して環境学習機会の提供などを考えている。</p>

3	<p>安全・安心、健康・福祉は当然のことで、その当然のことが非常に重要であり、総合計画のベース部分であることは間違いないが、それに向かうことでは魅力を感じられないのではないかと。市外へ進学しても、例えば5割の子どもたちが帰ってくるようなキャッチフレーズを第2次総合計画に盛り込めないかと考えている。</p>	<p>【会長】重要な要素は入っているが、それを外に見える形にする工夫が必要ではないか。</p>
4	<p>現総合計画の反省やアンケート調査結果などを踏まえ、この基本理念が示されていると思うが、現在人口減という問題もあるので、いかに抑え、増やせるような基本構想ができればよいのではないかと。</p>	
5	<p>医師会では、地域包括ケアシステムという形で、まちづくりに取り組んでいるが、子どもから大人、お年寄りまで、みんなが参画できるような形で進めていただきたい。ワールドカフェは、高校生、一般を個別に実施するのではなく、一緒に実施した方がよいのではないかと。</p>	<p>【会長】まちづくりを一つのキーワードとして、市民や地域の諸団体など、みんなが参加していけるような参画のあり方を意識していく必要があるのではないかと。</p>
6	<p>基本的には、この基本構想の考え方でよいと思うが、基礎調査報告書の健康・福祉に、民間活動が反映されていない。地域支え合い活動が始まっており、民間、地域の力を大いに役立てようというときなので、反映することができれば、非常に意識が高まるのではないかと。</p>	<p>【会長】民間活動をしっかり認識し、取り入れていくことは大切ではないかと。</p>
7	<p>子どもたちがこれからのまちづくりに期待する内容としてふさわしい言葉に選んだのは、安心・安全が一番多かったが、安心・安全という言葉の範囲は非常に広く、年代によって意味合いが違うと思う。子どもの安心・安全は、通学、交通の問題かもしれないが、災害時にどこに避難をしたらいい</p>	<p>【会長】中高生にとっての安心・安全の意味は、かなり広い範囲が含まれてくると思うが、しっかりと検討し、具体的な内容として反映させていくことが必要ではないかと。</p>

	のかなどを安全と考えるかもしれない。	
8	市民の考え方を聞く方法として、アンケートしかないのかもしれないが、総合計画をほとんど知らない人たちを対象としたアンケートになっているのではないか。行政に対する思いやりにより、考え方も違ってくる。項目もスポーツという単語だけでも、競技スポーツなど、考え方がたくさんあり、それに関わる青少年の健全育成や健康などをどのような形で反映させていくのか懸念する。安全で安心して住めるまち、商店街の活性化を実現するには、大きな財政的負担が必要となるので、行政にお願いするだけでなく、市民がどういった活動で参加していくかを入れると違った考え方ができるのではないか。	【会長】市民も含めた民間参加型で、行政と協働していくことをしっかりと入れることは必要ではないか。
9	市内には文化財が多くあるので、それをうまく活用する方法を構築してほしい。	
10	中高生意識調査で、安心・安全のほかに自然に関する意識が意外と高く驚いた。緑がたくさんあるのに、なぜ、自然が気になるのか分からないので、自由記入欄の回答を次回の会議に出してもらえないか。 市民意識調査で、満足度が低く、重要度が高い項目は、今後改善していかなければいけないと思うが、「無駄のないスリムな行財政運営」は、まちづくりの課題にはあるが、基本理念に言葉として入っていない。細かい施策の段階の話になるとは思うが、市民が感じているものを省くのはいかなものか。	【市】市民ワークショップの報告書に、自然環境の保全の記載があるが、河川をきれいにしようとか、ワーキングを行うなどの環境教育が意識の高さにつながっていると思われるが、自由意見を次回の会議に出したい。 【会長】これからの策定プロセスの中でのことになるが、基本理念とそれ以降の基本構想で、重要なキーワードの整合性を意識してしっかりと取ることが重要ではないか。
11	基本理念はこれでよいと思う。「安心・安全で健やかな暮らし」、「魅力や	【会長】具体性は非常に大事である。

	<p>活力のあるにぎわいのまち」などは具体的なものとして総合計画に盛り込んでいただきたい。</p>	
1 2	<p>市民意識調査は、70代の1人暮らしで無職の方の回答割合が高く、偏っている気がする。中高生は、これからのまちづくりに期待するものとして、「安心・安全」が市民意識調査結果よりも下回っているが、「自然」や「交通」、「観光」は市民意識調査よりも上回っている。</p> <p>基本構想で「やすらぎとふれあいに満ちた”ほっと”なまちを継承する」とあるが、旧6市町村に配慮するあまり、具体性に欠ける曖昧な構想になっている。キーワードを無理に「やすらぎと”ほっと”」や「ふれあいと”ほっと”」に合わせた様子が見て取れる。もう少しインパクトのある、将来の大きな目的に向かって高邁な理念を掲げることにより、小さい部分が整理されるのではないか。</p>	<p><b>【副会長】</b>市民意識調査の10代は回答者数は14人であり、この結果で判断するのは非常に危険で、参考にならないが、中高生意識調査の質問と、市民意識調査の質問を対照すると、共通する項目がほとんどであり、足し合わせることで、年代別に比較検証することができる。各世代の意見をうまく吸い上げるという意味で重要な操作だと考える。10代の声と一生懸命働いている世代の声、退職された人の声の間にどういったギャップがあるかを比較分析することで、若い人たちの考えをしっかりとキャッチでき、これからの未来をどのように考えていくかが見えてくるのではないか。</p> <p><b>【会長】</b>先行する計画との整合性は意識する必要があるが、時代に合った新しい案をつくるのであれば、継承しつつも重要なところをもう一度検討することは、必要ではないか。</p>
1 3	<p>基本構想については特に意見はありません。消滅しないように、いかに人口減を抑えていくか、産業も新たに増やすのは難しいので、現状の産業をいかに守って発展させていくかが大事であり、住みやすさを発信できれば、渋川に残ってもらえるのではないか。産業を守り、住みやすい市となるような計画を立てられれば、東京に勤めたとしても、渋川に住んでもらえるのではないか。</p>	<p><b>【会長】</b>現状を認識し、それをベースに発展させ、アピールできるような計画にすることが重要ではないか。</p>
1 4	<p>この基本構想に依存はないが、将来市が発展するために、歴史ある温泉をもう少しおもてに出していただきたい。4大企業が入ったことで市が急激</p>	<p><b>【会長】</b>個性の見える具体性のある計画にすることが必要ではないか。</p>

	に発展したので、企業誘致や、市民が定着するために、例えば、特色のある学校体制などを基本構想に入れていただきたい。また、この地域は昔から交通の要衝で、医療センターの完成により、医療が充実したので、安心して医療が受けられるなど、今後発展するために必要なものを具体的に挙げていただきたい。	
1 5	意識調査結果など基本的なところを網羅した基本理念だが、現行の総合計画の言葉の順番を入れ替えただけと感じる。課題やインパクトなどを盛り込んでいくことが、これからの課題ではないか。「豊かな心と文化を育むまち」に「うるおいのある地域文化の創造」とあるが、これはどういったものか。	【市】イメージ的な部分もあるが、ぎすぎすとしたものから人間味があるものというところを「うるおいのある」という部分で整理し、地域文化の創造を通して一体感を醸成していくということである。
1 6	渋川市は大きな災害や事件もなく、安心して住めると思うが、魅力や活力がないように感じる。安心・安全も大切だが、自分の家族が外に行ってしまうような魅力のないまちではなく、インパクトのある言葉を使い、他の若者もこちらに取り込むような、そういう魅力のあるまちにする必要があるのではないか。	【会長】何が重要なのかをしっかりと前に出せるようなインパクトのある計画にする必要があるのではないか。
1 7	基本理念の「豊かな心と文化を育むまち」に「生涯学習環境の充実を目指します」とあるが、生涯学習環境の充実というと、非常に狭い意味に捉えられてしまうが、どのように考えているのか。	【市】学校教育や生涯学習などという意味で捉えているので、言葉を修正したい。
1 8	渋川市はいろいろなものを実施しているが、講座やセミナーなどの参加者はいつも同じであり、20代、30代には伝わっていないのではないか。20代、30代に市の良さや魅力を伝えることができれば、定住に繋がると思	【会長】情報発信方法は非常に重要であり、高校生はSNSなど、それぞれの年代に合った方法で発信することが大事である。

	う。もう少し効果的な広報活動ができたらいいのではないか。	
19	基本構想を市民ニーズに基づいてつくるのではなく、市民ニーズを把握し、それに対応する10年後、20年後を見据えた施策を打ち出していくのが行政ではないか。渋川市の魅力を産業に結び付けることで、より魅力ある市になるのではないか。観光という視点で渋川の魅力を広域に考えれば、榛名や赤城山、日光などとの連携も考えられるのではないか。アンケート重視ではなく、ロマンのあるもの、優位性のあるものを総合計画に込めてもらいたい。	
20	前回、総合計画後期基本計画を見ても心が躍らないとの指摘があったが、今回もワクワクするものや魅力が必要ではないか、もう少し強いパンチラインが必要ではないかという意見が多くあった。パンチラインをどこに持ってくるかは、次世代への夢の懸け橋に集約できるのではないか。アンケート結果では、基本的に観光やまちのにぎわいが必要、交通についての思いを随所に見ることができ、人を呼び込むことは、年代を超えて期待されていると読み取れる。人を呼び込む仕組みを、新産業をつくるのではなく、今ある産業でさらに人を呼び込むためにどんな工夫ができるかを働いている20代・30代、夢も希望もある10代、いろいろな知恵を持っている70代・80代と対話する場を持つことで、にぎわいが生まれるのではないか。「やすらぎ」、「ふれあい」、「ほっと」は、今回も継承されている部分だが、当たり前で、それほど代わり映えがないとの意見は、市外在住者からするとうら	

	<p>やましく思う。毎日仕事に追われ、大変な思いをしている人も多くいる。交通の要衝で、人々がやすらぎ、ふれあい、ほっとする場所があり、子どもが自然が豊かだと自慢しているこの市をアピールすれば、移住する人もいるのではないかと。子どもを育てるなら群馬ではなく渋川市という計画でもよいのではないかと。</p>	
21	<p>計画の継承性は大事であり、今回の基本構想の中身は決して間違っていないと思うが、今求められているものをインパクトのある形で明確に示すことや、個性、優位性などを示すことも必要であり、にぎわいや人を呼び込むことも求められている。安心・安全や地域の環境も大事だが、活力がある地域にしていくために、少し工夫していただきたい。基本的にはこの提案、キャッチフレーズは理解できるが、内容について少しインパクトのあるものにしていく。</p>	